

今月の植物

ゲンノショウコ (フウロソウ科)

学名 : *Geranium thunbergii* Siebold ex Lindl. et Paxton

古来から有名な薬用植物である。煎じて飲むと「現の証拠」に効果が現れることに由来している。全国に分布するが、佐賀県ではやや高地の草原や路傍に8月終わりから10月頃まで真っ赤なかわいい花を見ることができる。よく見ると花の色は深紅のものから桃色がかったものや白色までである。茎は下向きの毛が有り、直立せず地面に這う。葉は掌形に3~5裂する。長い柄があって基部に1対の托葉がある。ふつう花軸の先端は二叉にになり上向きに花をつける。萼片5、花弁5、雄しべ10、雌しべ1で花柱の先は5裂する。西日本では赤色花、東日本では白色花のすみ分けがあるそうだが、白色花のものはシロバナゲンノショウコといい佐賀県内でも見かけることがある。薬効はどちらも変わらない。成分はタンニンなどで全草を整腸、下痢止めとして服用される。民間薬として広く用いられイシャイラズ(佐賀)、イシャタオシ(京都) タチマチグサ(秋田)、テキメンソウ(山口)、ゲリドメ(島根)など全国に薬効を示唆した方言も多い。「夏の土用の頃採って、煎じて下痢止め、胃腸薬に用いる(上峰町)」とある。(文責:井手義信)



写真:唐津市七山 ※枠内は羽金山林道 (2020.8.21 撮影)

【参考文献】 薬草観察ハンドブック(倉成靖任)、検索入門「野草図鑑⑥」(保育社)、佐賀の植物方言と民俗-増補改訂版-(佐賀植物友の会)、日本維管束植物目録(北隆館)